

市政運営の 基本的考え



武蔵野市長
市上 守正
むらかみ もりまさ
むらかみ しょうせい

平和で活力ある 都市づくりに向けて

世界の都市との交流、市民同士の交流をはぐくみ、お互いの人権を尊重し合うことが平和への道であると思います。平和の大切さを若い世代に伝え、学び合い、発信しながら、国内外の都市と連携し大きな平和へのうねりを増幅していきたいと思えます。

東日本大震災から5年が経過しました。首都直下型地震の発生が想定される中、耐震・減災のまちづくりを進め、地域住民相互の連携や都市相互の連携体制を深めて、より安全・安心なまちづくりを進めます。

**一人ひとりを大切に
社会に向けて**

本年4月より、障害者差別解消法が施行となります。市も率先して障がい者差別のない取り組みを実践していきます。男女の差別がなく、平等に参画できる

社会の実現に向け、その後押しとなる男女共同参画条例(仮称)の制定を目指すとともに、むさしのヒューマン・ネットワークセンターを移転し、男女共同参画推進センターとして新たに整備します。

健康増進や介護予防事業を促進するとともに、高齢者の社会参加や生きがいづくりなどを通じて、健康寿命を延ばし、元気で長生きしていただけるような健康長寿都市を目指します。

一人ひとりを大切に、子どもから高齢者まで誰もが安心して住み慣れた地域で暮らし続けられるまちづくりを進めます。

子どもたちの笑顔をはぐくむ

認可保育所2園を含め、さらなる定員増や事業所内保育事業所の新設補助、幼稚園の預かり保育の拡充などにより、待機児童の解消を目指します。

昨年からスタートした新たな教育委員会制度に基づく総合教育会議では、市長と教育委員により、教育行政の大きな方向性や重点的に講じるべき施策などについて協議し、「武蔵野市教育、文化等の総合的施策の大綱」を定めました。今後も教育委員会と連携しながら、子どもの健やかな成長と最善の利益を尊重する教育施策を実施します。

地域コミュニティと自治の前進

コミュニティ協議会をはじめとする多様な活動団体が参加し、地域の課題解決

に向けた協議の場である「地域フォーラム」の取り組みが広がるよう支援します。介護予防や健康寿命の延伸、多世代交流などを目的とした地域の高齢者の集いの場の開設や運営を新たに支援します。社会貢献活動に対するポイント制度を導入して高齢者が相互に支え合う仕組みを推進します。さらに、多くの団体が行う地域活動を支援するとともに、協働型事業の取り組みを推進します。

満18歳に選挙権が引き下げられることを契機に、若い人の地域への関心や投票行動への啓発を進め、積極的な市政への関わりを促すことで、市民自治の大きな原動力となることを期待します。

個性輝くまちづくり

武蔵境駅周辺は、今春、いよいよ駅北口広場の完成を迎えます。今後も南北一体のまちづくりを進め、武蔵境の魅力を大いに発信します。

三鷹駅周辺は、権利関係者や市民とともに三鷹駅北口地区の将来ビジョンを共有し、玉川上水と連続する風格あるまちづくりを進めます。

吉祥寺駅周辺は、人に優しい取り組み、歩いて楽しいまちづくりを進め、新たな魅力を生み出すまちづくりに重点的に取り組みます。

本市の特性を踏まえた景観ガイドラインを策定し、良好な街並みを今後も維持・誘導することで、武蔵野市らしさを醸し出す、緑豊かで質の高い景観まちづくりを進めます。

くりを進めます。

環境と文化の創造

武蔵野クリーンセンターの老朽化に伴う新たな施設建設については、年内の完成に向け工事を進めています。循環型社会の一翼を担う施設として、市民とともに豊かな環境創造拠点を創り上げます。

平成32年には東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が、またその前年にはラグビーワールドカップの日本大会の開催が予定されています。この大会を契機に、本市の青少年の健全育成や市民スポーツの振興のみならず、広く国内外との交流を通じて、幅広い都市文化の醸成を図ります。また、本市がルーマニアのホストタウンとして認定されました。スポーツ・芸術・文化・産業などの幅広い交流を図りながら、市をあげてルーマニアを応援していきます。

健全な市政運営

公共施設等総合管理計画を策定し、財政予測を考慮したうえで、必要な公共施設等のマネジメントに取り組みます。行財政改革に取り組みながら健全財政の維持に努め、持続可能な都市づくりを進めます。

(平成28年度施政方針並びに基本的施策)より要約。予算案については、P.14 特集2へ)